

令和6年度事業報告

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(7)
3. 編集委員会	(7)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(11)
6. 専門医制度委員会	(12)
7. 国際学術交流委員会	(15)
8. 評議員選出委員会	(16)
9. 保険委員会	(16)
10. 倫理委員会	(16)
11. 腎不全総合対策委員会	(17)
12. 危機管理委員会	(17)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(18)
14. 男女共同参画推進委員会	(18)
15. 感染対策委員会	(19)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(21)
(2) 監事	(21)
(3) 評議員	(22)
(4) 退任した役員等	(27)
(5) 役員等の報酬等	(27)

② 会員に関する事項	(28)
------------	------

③ 職員に関する事項	(28)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(28)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(32)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(32)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(33)
2. その他の記載事項	(35)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 69 回日本透析医学会学術集会・総会は、東邦大学医学部腎臓学講座 教授 酒井 謙会長が主宰し、2024 年 6 月 7 日（金）、8 日（土）、9 日（日）の 3 日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。

今回のテーマは「前進 腎代替療法～次世代の interprofessional academism を目指して～」を掲げて開催し、参加者は 21,017 名であった。

<会長講演>

「10 年後の腎代替療法と私たち」

<特別講演>

「AIM による末期腎不全に対する新しい医療の創出」、「異種移植の未来」、「重症化予防と共同意思決定の推進に向けて～どこまで透析医療を提供するか～」、「トイレカー開発と活用の経験をふまえた透析カーの開発について」、「ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障」、「「生きる」を支える～患者・家族・医療者のスピリチュアルケア～」、「療法選択時にお話しすべきこと：心血管系合併症について」、「令和 6 年能登半島地震と透析医療」

<緊急特別企画>

「透析患者総数減少へ その要因・展望を議論する」

<会長特別企画>

「透析患者のジレンマ克服に向けて」、「働き方改革とダイバーシティ」

<会長特別企画（ずばり！あの先生のお話が聞きたい！シリーズ）>

「高齢 CKD 患者の身体・認知機能を護る～透析と共により良い余生を送るために～」、「肥満関連腎症の病態生理」、「鉄補充の必要状態」、「長時間透析・頻回透析」、「腎性骨症」、「2 次性 QT 延長症候群」

<招待講演>

「Promoting Conservative Kidney Management and Kidney Supportive Care in Asia : Paradigm Shift and New Opportunities」、「Current Status of Renal Replacement Therapy in Korea」、「Arteriovenous access creation in challenging patients : new attempts」、「Bone disease in kidney transplant recipients」、「Fluid status assessment in renal failure patients」、「Green Dialysis : Addressing the Imperative for Sustainability」

<教育講演>

「透析施設のサイバーセキュリティ対策」、「透析そう痒症治療の最前線」、「透析導入となった ANCA 関連血管炎の治療戦略」、「カフ型カテーテルの安全管理」、「本邦腎移植の現状と生体腎移植施設要件の明確化の必要性」、「バスキュラーアクセス作製修復～画像から技術習得を目指して～」、「超音波を用いたバスキュラーアクセス機能のサーベイランス」、「高齢者腎移植の現状と課題」、「血液浄化法と分離膜」、「PD と HD 併用療法」、「透析施設における日常のバスキュラーアクセス管理」、「透析アミロイドーシスに対する β_2 -ミクログロブリン吸着法の現状と展望」、「透析患者の心臓弁膜石灰化」、「腹膜透析における遠隔医療」、「腎不全医療に関する倫理と法」、「CKD-MBD の新たな疾患コンセプト」、「Green Nephrology～電力消費とその削減～」、「臨床研究の視点と事例から学ぶ！患者報告型アウトカム（PRO）と健康関連 QOL の応用」、「透析患者の悪液質とサルコペニア・フレイル」、「透析患者に対する利尿薬の使い方」、「Palliative PD」、「包括的腎臓リハビリテーション～転倒リスクのある透析患者へのかかわり～」、「CART の最前線」、

「急性腎障害に対する血液浄化法のトピックス」, 「生体腎移植にたどり着けない理由」, 「腎代替療法選択支援と腎代替療法指導管理料」, 「感染症 Up-to-Date～コロナ・パンデミックからサイレント・パンデミック AMR まで～」, 「透析室で押さえておくべき感染対策」, 「ISPD ガイドライン 2023 からみる新しい PD 出口部管理」, 「透析医療の災害対策」, 「透析液清浄化と排水管理のすべて」, 「透析医療における診療報酬制度」

<シンポジウム>

「透析患者の心房細動のマネージメント」, 「リアルワールドにおける CKM の課題：その解決の糸口を探す」, 「骨・骨格筋障害と MBD 透析患者の骨を守る透析患者の骨代謝と骨折」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 1)」, 「わが国における HD/オンライン HDF における溶質除去と生命予後」, 「PD 合併症への最新のアプローチと対策」, 「Critical Care Nephrology の最近の進歩」, 「血液浄化における α 1MG 除去の意義と効果的除去」, 「透析患者の皮膚を再考する～皮膚を守るために知るべきこと・すべきこと～」, 「透析療法における在宅生活維持のための多職種連携」, 「ここまで来た、糖尿病治療の新たな展開～透析患者への適応を考える～」, 「高齢透析患者の終末期管理」, 「災害時の透析医療に関する広域関東圏連携会議の設立と展望」, 「未来の透析医療と AI 技術」, 「透析患者の予後を向上させる心血管症治療の進歩」, 「円滑な腎代替療法の移行のために～透析から腎移植・腎移植から透析～」, 「臨床工学技士による VA の日常管理」, 「CKD-MBD ガイドライン 新時代」, 「ここまで来た透析患者の血管石灰化予防戦略～基礎・臨床研究からの新たな展開～」, 「透析患者の腸腎連関～透析患者と腸内環境～」, 「透析患者の心血管障害を再考する！」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 2)」, 「HIF-PH 阻害薬をフカボリする ～何がわかって何がわかっていないのか?～」, 「透析患者の性差を考えた治療と支援」, 「超高齢者に対する PD～人生の最終段階での療法選択, PD 導入と継続のポイント～」

<合同企画シンポジウム>

日本腎臓学会：移行医療（保存期～透析期）の問題点

日本腎臓リハビリテーション学会：透析患者の腎臓リハビリテーション, サルコペニア対策の視点から

日本臨床腎移植学会：イスタンブール宣言 5 学会声明（今腎移植を増やすには）

日本臨床工学技士会：タスクシフト・シェアの現状と将来の透析医療

日本心不全学会：透析患者の HFpEF の病態・治療に迫る

日本腎不全看護学会：Successful aging/terminal stage を目指した腎不全看護

日本フットケア・足病医学会：透析患者の足病克服に向けて～各専門領域からの視点～

日本臨床栄養学会：私の透析管理（老若男女）

<日台韓合同シンポジウム>

「Conservative kidney management : CKM」

<ワークショップ>

「透析患者の至適体液量を測定する－体組成分析 vs. 循環動態分析－」, 「血液浄化法によって薬物の除去率, 投与方法は異なるのか?」, 「ウレミクトキシンと透析療法」, 「急性腎障害における栄養療法」, 「末期腎不全治療のパラダイムシフト：modality から domesticity へ」, 「基礎と臨床が連携するサルコペニアの病態解明とこれからの栄養管理」, 「本邦における長期 PD の安全性を検証する～腹膜透析の新たな潮流～」, 「微量元素：あなたはいくつ言えますか?」, 「透析システムの生体適合性」, 「モニタリングのスペシャリストを目指して」, 「腹膜透析 CQI」, 「生体腎移植ドナーの安全性検証」, 「透析の経済と人口減少：持続可能な経営モデルの探求今後の保険点数を含めた透析医療の展望」, 「血液透析導入時の条件設定の考え方（低効率透析の是非）」, 「透析患者の血圧管理を考える」, 「PD 教育（患者, 看護師, 医師）」, 「在宅透析（HHD・CAPD）および長時間透析における臨床工学技士の役割と展望」, 「サイコネフロジーと多職種連携を科学する」, 「高齢者・フレイル患者の透析治療を再考する」, 「透析関連排水の適正管理」, 「小児腎代替療法の未来：課題と対策」, 「VA 看護の確立に向けて VA をアセスメントする看護の視点」, 「末

期腎不全患者の ACP と CKM の実際」, 「集まれ! 透析食を研究しているチーム~全国で繋がろう~」,
「CKD 全期を通じた腎臓リハビリテーション」

<学会・委員会企画>

危機管理委員会 (医療安全小委員会) 企画: 透析医療における医療安全のための提言作成に向けて

学術委員会企画: Dialysis therapy, year in review 2023

学術委員会 (血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ) 企画: 透析患者の糖尿病治療ガイド改訂 コンセンサスカンファレンス

専門医制度委員会企画: 「サブスペシャリティ学会の方針転換」と日本透析医学会専門医制度

感染対策委員会企画: 改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント

血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会/血液浄化に関連する新技術検討小委員会企画: 未来の透析技術への前進—「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」合同セッション—

統計調査委員会企画: こんなことまでできる! WADDA システム

総務委員会企画: 本邦の血液浄化技術の海外展開, 軌跡と展望

腎不全総合対策委員会企画: 末期腎不全患者の QOL 向上を考える

男女共同参画推進委員会企画: TSUBASA PROJECT・2023 年度透析専門医勤務状況調査報告

保険委員会企画: 診療報酬令和 6 年改定で何がどのように変わったか?

危機管理委員会 (災害対策小委員会) 企画: 地域における災害時透析医療確保の取り組み

国際学術交流委員会企画: 各国における透析医療における自然災害対策 Countermeasures for natural disaster in dialysis center

国際学術交流委員会企画: 各国における適切な透析効率とそれを達成する工夫 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment

<よくわかるシリーズ>

「ボタンホール穿刺の 20 年の歩み~技術の進化と臨床への貢献~」, 「カフ型カテーテル合併症について」, 「透析医療における女性リーダーの育成とそのアプローチ」, 「透析診療に安静 12 誘導心電図を生かす」, 「高血圧症治療の再評価」, 「在宅血液透析 2024~過去から未来への挑戦と展望~」, 「透析患者のむずむず脚症候群をどう治療するか?」, 「たんぱく質の質と腎臓との関係~食事パターンも含めて~透析患者の栄養管理 update」, 「血液透析処方組み立て方」, 「透析患者のリハビリテーション, 結局どうしたらいいの?」, 「Incremental Hemodialysis~段階的血液透析導入法~」, 「慢性疾患患者のアドバンスケアプランニング」, 「透析患者のスキンケア」, 「認知症の人の心に届く声のかけ方, 接し方」, 「もう一度知ろう! 心不全と胸部診察」, 「循環血液量モニタの役割と活用」, 「血液透析患者の甲状腺機能管理」, 「療法選択外来」, 「身体組成分析装置の役割・期待 (~ドライウエイトの設定~)」, 「バスキュラーアクセス (VA) のトラブルシューティング手術」, 「上腕動脈表在化バスキュラーアクセスの合併症の修復」, 「コメディカルの研究マインドの重要性と学会発表・論文作成の実際」, 「シャント作製術, カフ型カテーテル留置術, 腹膜透析カテーテル留置術」, 「患者の尊厳と自律を保證する看護を考える」, 「鉄動態 (欠乏・過剰) に気を付けよう」, 「VA 管理 管理簿作成のノウハウ」, 「3%を超えるための PD 拡充戦略 腎代替療法の多様性を考える」, 「超音波エコーガイド下穿刺の実際~エコーガイド下穿刺の手順および注意点~」, 「COVID-19 から学んだ透析医療における感染対策~対策継続の意義~」, 「CKD 患者のオーラルフレイル対策~適切な医科歯科連携を目指して~」

<企業共催シンポジウム>

「診療報酬改定から見えてくる PD 連携の将来像」, 「二次性副甲状腺機能亢進症におけるハイリスク患者の最適治療を考える」, 「多職種間で考える足病治療」, 「腎性貧血治療における HIF-PH 阻害薬と鉄剤の役

割], 「CKD-MBD の視点から考える透析液組成」, 「透析患者のこれからを見据えて: 高リン血症治療の今後の展望」, 「透析患者の腎性貧血治療～なぜ ESA ファーストなのか?～」, 「ロキサデュスタットは透析期腎性貧血治療のファーストになり得るか?～鉄代謝を踏まえた実臨床での有用性を考える～」, 「貧血と予後を考慮した鉄代謝マーカーの適正評価と鉄補充」, 「共に腎代替療法を前進させる～患者さんの声を聴く～」, 「DOPPS シンポジウム」

<企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

<その他>

6月7日(金) 医療安全講習会

6月8日(土) 医療倫理講習会

6月9日(日) 感染対策講習会

6月7日(金) 8:00～6月28日(金) 17:00 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第69回通常総会開催: 2024年6月6日(木) 15:00～16:30

(2) 臨時総会開催: 2024年6月6日(木) 16:30～17:30

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 2024年6月8日(土)

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 2024年5月17日・6月6日・8月2日・12月6日・2025年3月14日

(2) 監事による監査会開催: 2024年5月13日(月)

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会(脇野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営, 内容の充実化において, 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(酒井 謙委員長)

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)に関しては, 本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については, 日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り, 各透析医療専門職が指導士資格取得できるよう努めた。

(3) 統計調査のあり方小委員長(友 雅司委員長)

① 統計調査データのWEB収集及びEDC(electric data capture)システムに関わる調査等を開始した。

② 本委員会及び統計調査委員会, 統計解析小委員会の各委員に対し, わかりやすく理解するためEDCシステム導入についての講演会を実施した。

③ EDC推進検討ワーキンググループと共同してEDCの導入を検討した。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会(山下明泰委員長)

① 委員会は年に2回, オンラインで実施している。

② 対面式研修を6期ぶりに, 第69回日本透析医学会学術集会・総会(令和6年6月, 横浜市)に合わせて実施した。COVID-19蔓延以前に決定していた研修候補者の中からカンボジアの5名を対象とした。3日間学会に参加したのち, 東京～神奈川の2大学病院を含む, 5施設で研修を行った。

③ 来年度は第70回日本透析医学会学術集会・総会(令和7年6月, 大阪市)の開催に合わせて, ベトナムからの4名を対象に研修を実施することを取り決め, 10月以降, その準備を開始した。

(5) 本学会のあり方小委員会(友 雅司委員長)

- ① 公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。
- (6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）
- ① 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページ MyWeb にアップし、専門医は単位取得できるようにした。
また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
- ② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。
- ③ 単位の認定に関しては、出題された 5 問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に繰り返し繰り返し視聴できるようにした。
- (7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）
- ① 日本透析医学会ブックシリーズの出版書籍として、「透析患者の糖尿病治療ガイド 2025」を出版することを決定し、取引基本契約を締結した。
- ② 出版書籍として「透析患者の糖尿病治療ガイド 2025」は 2025 年 5 月の出版を目指す。
- (8) 台湾、韓国、本学会 3 学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）
- 2024 年度は日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3 学会の年次学術大会を下記の通り開催した。
- ① 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会（2024 年 6 月 8 日 16：30～18：30 開催、日本横浜）
テーマ：「Conservative kidney management：CKM」
- (1) 座長：
1. 重松 隆（りんくう医療センター）日本
 2. Kuan-Yu Hung（Taipei Medical University, Taipei, Taiwan）台湾
 3. Chun Soo Lim（SMG-SNU Boramae Medical Center, Seoul National University, Korea）韓国
- (2) 演者：
1. 脇野 修（徳島大学）日本
演題名：The positioning of CKM in Japanese medical system
 2. Chia-Ter Chao（National Taiwan University Hospital, Taipei, Taiwan）台湾
演題名：Conservative kidney management (CKM) for renal patients —Taiwan experience—
 3. Jeong-Hoon Lim（Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Kyungpook National University, Kyungpook National University Hospital, Daegu, South Korea）韓国
演題名：Current Status of Kidney Replacement Therapy and Shared Decision Making for Dialysis Therapy Selection in Korea
- ② APCN と韓国腎臓学会合同開催（2024 年 6 月 16 日 8：30～10：00 開催、韓国ソウル）
テーマ：「Optimal Management of ESKD Patients in Asia」
- (1) 座長：
1. 武本佳昭（大阪公立大学）日本
 2. Mai-Szu WU（Taipei Medical University）台湾
 3. Sang-Ho LEE（Kyung Hee University Hospital at Gangdong）韓国
- (2) 演者：
1. 友 雅司（大分大学）日本
演題名：Patient Selection and Prescription of Hemodiafiltration
 2. Mai-Szu WU（Taipei Medical University）台湾
演題名：Strategies to Increase Kidney Transplantation

3. Sung Joon SHIN (Dongguk University Ilsan Hospital) 韓国
演題名：Conservative Kidney Management & Palliative Care : Dialysis Withhold and Withdrawal
4. Philip Kam-Tao LI (Prince of Wales Hospital PD-first Policy in Hong Kong : Pros and Cons) 香港

③ 台湾腎臓医学会 (2024年12月15日10:00~11:30開催, 台湾台北)

テーマ：「Strategies to Reduce Burden of Diabetic Kidney Disease and End Stage Kidney Disease - A Local perspective」

(1) 座長：

1. 小川智也 (埼玉医科大学総合医療センター) 日本
2. Mai-Szu WU (Taipei Medical University) 台湾
3. Hyeong-Cheon Park (Yonsei University College of Medicine) 韓国

(2) 演者：

1. 森 克仁 (大阪公立大学) 日本
演題名：Special consideration of dialysis care for diabetic end-stage kidney disease patients
2. Chih-Cheng Hsu (Executive Director, National Center for Geriatrics and Welfare Research) 台湾
演題名：Integrative diabetes and Kidney Care - Taiwan experience
3. Sang Youb Han (Inje University Ilsan-Paik Hospital, Korea) 韓国
演題名：Reducing The Incidence of Diabetic End-Stage Kidney Disease : Lesson from Korea
Kidney Health Plan 2033

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会 (深澤瑞也委員長)

1) 昨年度のVA血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する修正点をまとめ公表した。また申請者にわかりやすいようにQ&Aスタイルでまとめ、ホームページ上に公表した。また個人情報保護法の遵守のため、本年は症例報告提出の際に、患者氏名が消去あるいは容易には確認できない状態にして提出を指示した。

2) 申請作業は構築した申請システムを用いて、昨年同様の秋からの申請、その後の審査を委員に依頼し判定を行った。生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行った。

申請者数 151名

最終結果

合格 計87名 (合格率60.0%)

不合格 計58名

結果は理事会に報告し最終決定とし、本人に対して結果発表を行った。本年より、個人情報保護法の遵守並びに手術記録において、医療法施行規則の遵守の審査強化により合格率は昨年度より低下し60.0%であった。不合格者には、不合格理由を記した書面を交付した。認定証の交付は、4月1日付けで交付。結果に対する異議がある場合には異議申し立てを行うこととし、規定の期限内に申し立てを受けることとした。

また本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては、昨年度同様に翌年度以降の委員会への申し送りをを行った。

6) 学会との連携, 協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会, (5) 透析療法合同委員会, (6) 内科系学会社会保険連合, (7) 外科系学会社会保険連合, (8) 臓器移植関連学会協議会, (9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, (10) 糖尿病性腎症合同委員会, (11) 登録腎生検予後

調査検討委員会, (12) 先行的献腎移植申請検査会, (13) 透析医療に関するグランドデザイン, (14) 日本透析医会との連絡協議会, (15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力, 連携を密にしていく。

2. 財務委員会

2024年度事業として, 日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また, 各事業に対して経費節減を心がけ, 2025年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊, 年間12冊を発行した。
- (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行した。ただし, 郵送は希望者のみに限定した。
- (3) 委員会報告として「統計調査委員会報告 2022年末慢性透析患者数“減少”の背景を分析する」を2024年和文誌57巻2号に, 「保険委員会報告 令和6年診療報酬改定に伴う保険委員会からの指針および参考資料提示のお知らせ」を57巻5号に掲載した。
- (4) 「令和5年度コメディカル研究助成報告」2編を57巻5号に掲載した。
- (5) 特集として「災害時の透析医療に関する広域関東圏連携会議の設立と展望」を2024年和文誌57巻9号に掲載した。
- (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2023 year in review」を2024年和文誌57巻11号に掲載した。
- (7) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」を2024年和文誌57巻12号に掲載した。

2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT)について

- (1) 引き続きオンラインのOpen Access Journal(著作権はCC-BY)として発行した。
- (2) Scopus, DOAJ, Web of Scienceなどの主要なAbstract & Indexingサイトに収載されている。
- (3) 2024年6月発表のImpact Factor 2023は0.9であった。
- (4) PMC(PubMed Central)への収載再申請を2023年6月に行ったが, 不採択の審査結果であった。2025年6月に再申請予定。
- (5) MEDLINEについては, MEDLINEのポリシーにより, 過去2年以内にPMCにrejectされたジャーナルは申請できないこととなっているため, 未申請の状態である。
- (6) 2024年1月~2024年12月は254編の論文投稿があった(2023年の189編から26%増)。掲載論文数は77編であった(2023年の62編から20%増)。
- (7) 2024年1月~2024年12月までの集計では, 論文採択率は32.7%であった(2023年は39%)。
- (8) 2024年1月~2024年12月までの集計では, わが国を含む世界40ヵ国からの投稿があった(2023年は40ヵ国)。
- (9) 2024年10月15日に査読投稿システムがSnappに変更された(EMで審査中の論文は最終判定までEMにて行われる)。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

2024年度学会賞(木本賞)・奨励賞の候補論文の選考学術委員の投票で候補論文をofficial journal『日本透

析医学会雑誌』56巻（2023年発行）とRenal Replacement Therapy（RRT）Vol.9 2024の中から合計10編を選定した。4月5日までに評議員に10編の中から推薦論文2編（1位、2位）を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文（3編）の中から2024年4月12日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。受賞論文は第69回日本透析医学会学術集会・総会で発表し表彰した。

2025年度学会賞（木本賞）・奨励賞の候補論文の選考を2025年2月3日に開始した。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査（SUDACHI STUDY）

慢性透析患者の栄養素摂取量および予後の関係の評価するため、大塚製薬工場との多施設共同前向きコホート研究（SUDACHI STUDY）を継続している。研究代表者は脇野 修学術委員会委員長、Steering committeeは日本透析医学会栄養問題ワーキンググループである。393名のベースラインデータの収集が終了したため、データクリーニングと解析を開始した。

課題② 第70回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDYの解析結果、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を発表するため、第70回日本透析医学会学術集会・総会において、ワーキンググループ企画「透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—」を開催予定である。

4) 慢性腎臓病ガイドライン改訂ワーキンググループ（倉賀野隆裕グループ長）

慢性腎臓病患者における貧血治療ガイドライン改訂ワーキングとして以下の改訂委員会を開催して改訂作業を進めた。

1. 第8回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂ワーキング（令和6年5月11日）
2. 第9回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂ワーキング（令和6年11月23日）

第69回日本透析医学会学術集会・総会において以下の2つのセッションで改訂の骨子を報告した。

1. シンポジウム4「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン（Part 1）」（令和6年6月7日）
2. シンポジウム22「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン（Part 2）」（令和6年6月9日）

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ（脇野 修グループ長）

2024年5月16日改訂ガイドラインが完成し、評価委員、顧問への閲覧を開始した。5月24日まで意見を頂き、変更はなかった。ガイドライン原案がまとまり、6月7日から9日の第69回日本透析医学会学術集会・総会で多くの学会員にガイドライン原案として紹介された。8月11日公聴会を「AP日本橋」リモートとのハイブリッドで開催し、広く意見を集めた。その結果、公聴会意見を盛り込んだ改正版であるCKD-MBD-GL素案が作成された。この素案をもってさらに広くパブコメを募集した。10月21日より11月18日まで60近いパブコメが寄せられ、各章の分担責任者がそれらに回答した。多くのコメントに対し、適切に回答され、質問者の理解が得られた。そしてさらなる改訂案が提出されたが、①研究デザインに関する意見、②PTH下限値に関する意見、③PTH低下療法の妥当性に関する意見、④エテルカルセチドの投与法に関する意見については担当者の回答後も議論が残った。12月6日の理事会において、これらの争点に関し検証する委員会の設置が決定され、①に関しては「JRDRの検証委員会」、②～④については「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン（2025年改訂版）のパブコメに関する委員会」が学術委員会の附属委員会として設立された。「パブコメに関する委員会」においては2024年12月26日から2025年1月14日、当該ガイドラインの査読委員を中心とした11名の委員が改訂案の争点に関する検討をメールにて行い、意見が提出された。この意見を盛り込んだ検証委員会案が完成し、2月1日に理事長に提出された。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）

2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会にて「透析患者の糖尿病治療ガイド（改訂版）」のコンセ

ンサスカンファレンスを開催した。その後、パブリックコメントを募集し、公聴会を開催した。パブリックコメントおよび公聴会で出された意見を基に最終版を理事会で審議し、承認が得られた。発行形態については書籍発行運営委員会で審議した結果、書籍として発刊することとなった。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

シャント系、カフ型カテーテルの使用に関する追補に関して、グループ内に2つの班を作り素案を作成中。

8) ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

血栓溶解剤ウロキナーゼ（UK）の出荷停止に伴う VA 血栓性閉塞に対する治療法に関して、急遽設定されたワーキンググループ。まずは関連学会の協力も仰ぎ、UK 使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査した。日本透析医学会誌にまずはアンケート結果を 2025 年 1 月号、その後シャント、カテーテルの治療に対する文献検索を 2025 年 2 月号に掲載した。UK 使用困難に伴い再建術などの増加があり、長期間の安定した HD のために危惧される内容となっている。シャント系血栓性閉塞に関してはウロキナーゼの代替薬となり得る（海外のガイドラインでは使用法が掲載されている）t-PA の本邦への導入を目指して現在厚生労働省との面談を重ねている状況。また血栓吸引デバイスに関しては販売社による本邦への薬事申請に際して、国及び PMDA に学会として働きかけを行っている状況。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）

提言作成委員会は、第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において、第 1 回の Official な会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第 9 回の議事（各方面の 30 名の委員からなる）が進行した。

日本透析医学会では、2014 年に「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」で、「維持血液透析の見合わせ」について検討する状態を示した。さらに 2020 年には、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を学会として社会に公表し、SDM、ACP に加え、CKM の概念は、腎臓内科医、透析医のみならず、一般社会にも広まってきた。CKM の自己意思決定に関するプロセスは、この第 2 回の提言に盛り込まれ、英文誌（RRT）にも掲載された。

今回この委員会においては、CKM の技術的な問題、社会的問題、緩和医療、法制度的問題を、根拠をもって明らかにし、わが国における CKM の腎不全医療における位置付けと緩和ケアの方法論を明確にする。以上を、脇野 修学術委員長が令和 5 年 11 月 1 日の学会理事会にて提案を行い、委員長に酒井 謙が着任した。

【主な内容】

1. CKM の本邦における社会的な問題点（医療倫理）
2. CKM の本邦における法律上の問題点（自殺ほう助、自殺教唆）
3. 生存権 患者の権利、認知症患者の生存権
4. CKM の腎不全医療における位置付け
5. 腎代替療法との比較（4 つの選択肢と並立か否か）
6. 人生の最終段階における医療とケアとしての意義
7. CKM 実践における医療とケアの問題点
8. 薬物療法（オピオイド、非オピオイド、鎮痛補助薬、保険診療で投薬可能かも含めて）
9. 非薬物療法（栄養療法、酸素投与、高カロリー輸液、補助栄養剤は可能か）
10. 精神・心理・霊的療法など（精神科医師・臨床心理士の介入が保険診療上可能か）
11. 小児、グリーフケア

【診療報酬】緩和ケアとしての CKM 緩和ケア病棟への入院、一般病棟入院患者への緩和ケアチームによる診療加算、在宅医療での麻薬使用に関する診療報酬等に関しては、その準備を含めての文言作成に留意する。

以上を、脇野 修学術委員長に個々の素案の提案を行いながら、第 9 回までの議事を終えた。

10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会（平和伸仁委員長）

新規委員会として下記メンバーにて発足した。

委員長：平和伸仁（横浜市立大学），副委員長：菅野義彦（東京医科大学），常喜信彦（東邦大学），
委員：有馬秀二（近畿大学），大橋 靖（東邦大学医療センター佐倉病院），古波蔵健太郎（琉球大学），
谷山佳弘（関西医科大学），田蒔昌憲（徳島大学），鶴屋和彦（奈良県立医科大学），
中川直樹（旭川医科大学），長田太助（自治医科大学），林 香（慶應大学）

初年度は，2024年度末における統計調査項目に対して，血圧に関する調査項目の追加を打診し，またその内容についての意見を委員に委託。透析時の血圧に加えて，家庭血圧値の臨床での使用状況等，いくつかの調査項目について検討されていることを確認。次年度の計画策定を行うとともに，統計解析担当委員追加を検討。

11) Green Dialysis に関する検討委員会（脇野 修委員長）

2024年12月6日の理事会で設立が承認され，委員会が設置された。以下の委員が選定され，2025年3月14日の理事会で承認された。

◎脇野 修，小川智也，川西秀樹，久野 勉，小岩文彦，竹内裕紀，武本佳昭，友 雅司，長沼俊秀，
永野伸郎，番匠谷将孝，水口 潤，水口 齐，峰島三千男，山下明泰，
（日本腎臓病薬物療法学会）浦田元樹，古久保拓

12) 小委員会活動

(1) 学術委員会 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

- 2015年から開催している Dialysis therapy, year in review 2023 を第69回日本透析医学会学術集会・総会（2024年6月7日）において委員会企画として開催した。
司会：脇野 修（徳島大学），小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）
1) HD, HDF 友 雅司（大分大学），2) 感染 菊地 勘（下落合クリニック），3) 糖尿病 阿部 雅紀（日本大学），4) PD 長谷川毅（昭和大学），5) CKD-MBD 大矢昌樹（近畿大学），6) アクセス 村上雅章（静岡県立総合病院），7) 心・血管 藤崎毅一郎（飯塚病院），8) 栄養 脇野 修（徳島大学），9) 腎性貧血 倉賀野隆裕（兵庫医科大学）
- 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2023 year in review の発表内容を原稿にして透析会誌に投稿を依頼して57巻11号に掲載した。

(2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

- 臨床系4委員，工学系4委員で，年2回の委員会活動を継続している。
- 第69回日本透析医学会学術集会・総会（令和6年6月）では，「機能効率小委員会」との合同企画「未来の透析技術への前進」で研究成果を公表した。演者5名中の3名を弊小委員会から出し，多くの参加者から好評を得た。
- 第40回日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会（2025年3月）において，弊小委員会とのコラボレーション企画（6演題）を実施し，好評を博した。
- 臨床系委員を強化すべく引き続き，リクルートに勤める。
- 今後の小委員会活動も，年2回を基本にオンラインで実施する。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

- ① 日本透析医学会，日本透析医会，JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い，その成果に関する啓発活動を行い，国土交通省より表彰を受けた。
- ② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく，日本医療機器テクノロジー協会（MTJAPAN），日本臨床工学技士会と協力して，ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行った。
- ③ 第69回日本透析医学会学術集会・総会にて「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および

「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」合同セッションを開催し、「血液浄化器の（中空糸型）の機能分類 2023」, 「ヘモダイアフィルタのふるい係数の測定」について発表した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（鷺田直輝委員長）

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催

①については、COVID-19の影響もあり開催できず、2025年度の開催を目指す。②については、計画のみではあるが、2025年度の第70回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画として、セッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」というセミナー開催を予定した。日本全国の研究教育機関における現在までの新たな試みを調査し、主要なものを本セミナーで発表してもらい、在宅透析、特に腹膜透析も含むような、看護師やコメディカルの教育体制の構築にも寄与する体制の構築に寄与するセミナーとなることを目指す。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

令和6年度の研究助成2件、日比野貴志（偕行会城西病院・理学療法士）および鈴木康二郎（松本市立病院・臨床工学技士）を、第69回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。

令和7年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ10件の申請があった。5名の委員の先生による審査の結果

花岡吾子（大阪公立大学医学部附属病院医療機器部・臨床工学技士）

「人工知能（Artificial Intelligence: AI）を用いたシャント音からのバスキュラーアクセス不全の診断」
西海 創（川崎医科大学総合医療センター ME センター・臨床工学技士）

「超音波エコーと機械学習を活用した持続的腎代替療法回路の凝血トラブル予測手法の開発」

の2件に助成することが3月14日決定した。

(6) 透析医学用語集作成小委員会（脇野 修委員長）

2025年1月15日、2024年度日本医学会分科会用語委員会が開催され、参加した。ICD-10からICD-11への変更作業の進捗が報告された。各学会に依頼が来ると連絡を受け、対応していく。

5. 統計調査委員会

1) 2023年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

① 「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌57巻12号に掲載した。

② CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」が整い次第、調査協力非会員施設に送付する。(施設会員には配布せず、学会ホームページ、WADDAシステムをご参照いただく)

③ 上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。

④ 上記現況報告のPDFファイル、PPTファイルを学会ホームページに掲載した。

⑤ 2023年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム（自動集計、研究データ切出し）に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム（自動集計）の2023年版を公開した。

2) 「わが国の慢性透析療法の現況(2021年12月31日現在)」をAnnual Dialysis Data Report 2021,

JSDD Renal Data Registry (JRDR) として、Renal Replacement Therapy (2024)

Article number : 10 : 78 (2024), doi.org/10.1186/s41100-024-00585-5として掲載した。

3) 2024年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

① 2024年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後UMINに公開した。

② 統計調査ファイルのダウンロードアップロードシステムの開発を業者に委託し、2024年調査から運用している。

③ 全国の透析施設に対して2024年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。

新規調査として各種降圧薬使用の有無（アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬、カルシウム拮抗薬、レニン・アンジオテンシン系阻害薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、 β 遮断薬、その他の降圧薬）、利尿薬使用の有無と種類、家庭での血圧測定の有無、LDL-コレステロール濃度、中性脂肪、スタチン使用の有無、エゼチミブ使用の有無、ペマフィブラート使用の有無、HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体、HBV DNA 検査、HCV 抗体、HCV RNA 検査の調査を行った。

④ 2025 年 4 月 1 日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

4) WADDA システム、学術研究用データ切り出しシステムの改善

① 学術研究用データ切り出しシステムについて、条件絞り込み機能を追加した。

5) 統計調査管理台帳システムの改善

① 統計調査管理台帳システムをさらに改善するため、一部システム変更を行った。

6) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

① 統計調査委員会企画：「こんなことまでできる！ WADDA システム」

7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

① 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析、論文化を解析小委員会中心に行った。

② 2024 年は JRDR を用いた研究結果 英文 13 編、和文 1 編が掲載された。

8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実

① JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。

9) 国内・国際協力の推進

(1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対して、データ提供を行った。

(2) 国際腎臓学会 (ISN) 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR への参加を行い、Web 会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

(1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。

(2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

(1) 2024 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。

(2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 2024 年度 認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査結果報告について（施設認定小委員会）

第 34 回新規申請・更新対象施設数について（深澤瑞也委員長）

1) 申請のあった認定施設 22 施設は規約に適合していることが報告され、承認された。

2) 教育関連施設 60 施設についても規約に適合していることが報告され、承認された。

これにより申請のあった認定施設 22 施設、教育関連施設 60 施設すべて認定された。

認定期限 2025 年 3 月 31 日までの更新申請施設 審査結果

1) 認定施設において更新対象 74 施設のうち 70 施設より更新申請があり、70 施設では規約に則り認定された。辞退施設はなく、認定区分変更は 4 施設あり、前述の新規申請で承認されていることが報告された。連絡なし、退会はなかった。

2) 教育関連施設において更新対象施設 127 施設のうち 109 施設より更新申請があり、109 施設すべて規約に則り認定された。辞退施設は 10 施設であった。また認定区分変更が 8 施設であり、前述の新規申請で承認されていることが報告された。連絡なし、退会はなかった。

- 3) 認定施設で更新疑義について、個々に適格可否が諮られた。
- 4) 更新辞退となった教育関連施設 10 施設、個々に適格可否が諮られた。

教育関連施設申請条件に関する専門医制度規則施行細則の一部改正

専門医制度規則施行細則第 9 条 2) の解釈に不一致な点があり、明確に記載する必要があるため、一部改正することとした。

2) 2024 年度専門医認定試験結果報告について

坂口美佳専門医試験小委員会委員長より、判定基準に基づいた合否判定結果を提示、承認を得た。

1. 受験者数

(1) 専門医認定申請者数	276 名 (2023 年度 293 名)
初回申請者	229 名
再申請者	46 名 (2023 年度 43 名)
特例申請者	1 名
申請書類不適格者	2 名
業績不適格者	5 名
症例要約不適格者	0 名
(2) 筆記試験・口頭試問受験予定者	269 名
受験辞退者・当日欠席者	0 名
(3) 筆記試験・口頭試問受験者	269 名

2. 科目別判定結果

(1) 症例要約

- ① 症例要約提出者 275 名 (1 名は特例申請者で要約再提出なし) で症例要約各 18 枚、総計 4,950 枚を分配して審査した。
- ② 配点は 1 症例について 5 点満点で採点。18 症例の平均点を得点とした。
- ③ 本年は C-1 (急性腎不全血液浄化症例) をサンプリング審査し、疑義もしくは不適と判定された 9 症例を委員会で検討、3 例に対して再確認のための資料提出を求めた。すべての症例で資料の再提出が行われ、再審査の結果全例が適正であると判定された。
- ④ 全申請者の症例要約のうち 2 点以下、または採点者から疑義のコメントが記載された症例を委員会で検討、10 症例については再提出、16 症例については確認のための資料提出を求め、再採点を行った。
- ⑤ 今年度から申請時に個人情報保護法に抵触する要約もしくは資料を提出した場合、総合点から減点することが決定された。1) すべての提出書類で個人情報の消去がないもの (不合格) は 0 名、2) すべてではないが、一部に消去がなされていないもの (D もしくは R 判定相当で総合点から -7.5 点) は 64 名、3) 消去が不完全 (透けて見えてしまうなど) であるもの (C-相当で総合点から -3 点) は 19 名であった。

(2) 筆記試験

- ① 例年通り MCQ 問題 100 問を出題した。
- ② 正答率分布
5.9~99.3% (2023 年度 24.1~99.3%)
- ③ 識別指数分布
-0.20~0.56 (2023 年度 -0.06~0.50)
- ④ 得点 (平均点±標準偏差)
70.0±8.2 (40~90) (2023 年度 76.7±7.6 (49~95))

⑤ 問題採択

正解率 50%未滿を参考に、識別指数と併せて問題の適否判定し、4問を不適當問題として全員正解とした。また、1問について正答を追加した。

(3) 口頭試問

① 評価は A, B, C, C-, D の 5 段階とし、人格的、倫理観に問題がある場合は別途 R と評価し、倫理的減点を加えた。

② 評点

試験官数の減少に対応して、C-を-3点、DおよびRを-7.5点とした。

減点対象の評価については、その理由を記載して依頼した。

3. 総合判定

今回の結果：平均 67.2 点、標準偏差 7.75 点

(1) 総合判定

合格基準

① 総合点：(平均 - SD)

② 筆記試験：(平均 - 2SD)

③ 口頭試問で試験官全員が R 判定ではない (全員が R 判定で不合格)

(2) 合格判定

① 総合点：227 名が合格基準を満たした

② 筆記試験：259 名が合格基準を満たした

③ 口頭試問にて試験官全員が R 判定：なし

筆記試験での不合格者は全員総合点でも不合格

(3) 合格率

全申請者中 $227/276 = 82.2\%$ (2023 年度 79.9%)

筆記口頭試問受験者中 $227/269 = 84.4\%$ (2023 年度 86.3%)

既受験者 $31/46 = 67.4\%$ (2023 年 60.4%)

上記が提示され、合格者の認定について承認された。

なお今回、受験者に任意で、アンケート調査 (回答 1 分程度) を行った。初期研修医制度終了後の基盤学会 (内科学会・泌尿器科学会) での専門医取得後、ただちに日本透析医学会専門医制度研修プログラムに入ったのか、他のサブスペシヤルティ学会の専門医制度を経由 (例えば腎臓専門医など) したのかを尋ねた。

内科専門医においては、直接の透析専門医の取得を目指した、ないしは腎臓専門医取得後に透析専門医を目指したかについて、半々の回答結果であった。

3) 日本専門医機構サブスペシヤルティ領域について

2024 年 8 月 19 日に、2024 年第 1 回機構認定サブスペシヤルティ領域懇談会を日本内科学会 (+ 日本腎臓学会) とともに行った。その結果、内科専攻医 3 年終了後の透析医学会の 3 年の通常研修は、専門医機構では認められない。あくまでも密接領域の腎臓学会との連携が必要であるとの日本内科学会の認識を、サブスペシヤルティ領域懇談会としていただいた。一方泌尿器専攻医 4 年終了後の透析専門医の通常研修は可能だが、最低必要な腎臓内科研修領域のカリキュラム・試験必要とのことであった。カリキュラム必要条件は 100 症例 (必須 60 症例)、専攻医の主体的な研修の場が必要 (診療部門)、かつ統一した試験問題が必要とのことである。現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じていることが、共有された。

4) 地方学術集会認定申請について

『日本アフレスシス学会中部地方会』より申請があり、提出書類を元に審議した。

結果、基となる日本アフェレシス学会が全国規模学術集会としてすでに認定されており、その地方会を地方学術集会として認定する規定がなく、現時点では認定不可とした。

5) その他

- 1) 産前・産後の研修期間の短縮について今後の検討課題とし、理事会で報告することとした。
- 2) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、規則施行細則第23条に追記することとし、3月の理事会で審議することとした。
- 3) カリキュラム小委員会（平和伸仁委員長）では、2025年に専門研修トレーニング問題集および専門研修マニュアルの改訂発行年であることが、共有された。

7. 国際学術交流委員会

1. 第69回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

1) Symposium 1. Countermeasures for natural disaster in dialysis center

Chairs : 伊藤恭彦, 兵藤 透

【GI-13-1】 Experience in providing support for overseas disaster relief operations~What they need? and what we need? ~

Akira Miyata : Japanese Red Cross College Of Nursing, Disaster Management Research Institute, Japan / Kumamoto Dialysis Access Research Institute, Japan

【GI-13-2】 Preparedness and response against great disaster in Japanese dialysis centers

Mariko Miyazaki : Department of Nephrology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Japan / Committee of risk management, Japanese Society of Dialysis Therapy, Japan

【GI-13-3】 Countermeasures for Natural Disaster in Dialysis Center in Indonesia

Pringgodigdo Nugroho : Faculty of Medicine, Universitas Indonesia, Jakarta, Indonesia

【GI-13-4】 Disaster Countermeasures in Dialysis Centers : Taiwan

Chih-Wei Yang : Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan / Chang Gung Memorial Hospital, Taoyuan, Taiwan

【GI-13-5】 Mitigating Disinfection-Related Water Treatment System Disasters in Hemodialysis Centers : Lessons from a Tragic Incident

Dung Nguyen Huu : Vietnam Dialysis Association Nephro-Urology & Dialysis center, Bach Mai hospital Nephro-dialysis department, Vietnam Military Medical University, Hanoi, Vietnam

2) Symposium 2. Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment

【GI-14-1】 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment : Vietnam
Shun Kubo : Hanoi French Hospital, Hanoi, Vietnam

【GI-14-2】 Past, present and main challenges of hemodialysis in Lao PDR

Sonedaohuang Daovanhong : Nephrology Department, Mittaphab Hospital, Vientiane Capital, Lao PDR

【GI-14-3】 How to achieve the better dialysis efficiency under Myanmar dialysis environment?

Khinthida Thwin : Asia Royal Hospital, Yangon, Myanmar

【GI-14-4】 Optimal Dialysis Efficiency under each country's dialysis environment : An experience from Thailand

Kriang Tungsanga : Department of Medicine, Faculty of Medicine, Chulalongkorn U., Bangkok, Thailand

【GI-14-5】 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment : Japan
Kenichi Kokubo : Kitasato University School of Allied Health Sciences, Japan

3) 一般講演 Free Communications

公募を行い第1日目に Oral presentation 3セッション (18演題), 第2日目に Oral presentation 4セッション (21演題)に加え, 第3日目に Poster presentation として2セッション (19演題)の応募・講演があった。年齢制限付きで中位および下位所得国からの参加者へ travel grant を提供した。

4) Farewell Reception

大会2日目夜に開催され, 総会に参加された海外からの参加者およびその家族を理事長, 大会長, 評議員, 委員にてお迎えして, 学術交流及び友情を深めた。

2. 国際交流派遣事業国際交流派遣事業

海外関連学会へ交流委員は派遣しなかった。

3. その他

国内外で開催される, 関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため, 2024年度は選出を行わなかった。

9. 保険委員会

1) 2024年第69回日本透析医学会学術集会・総会において【診療報酬令和6年改定で何がどのように変わったか?】のセッションを司会: 深澤瑞也, 川西秀樹の委員で開催。

演者: 菊地 勘, 川西秀樹, 深澤瑞也, 中元秀友で2024年度改定の総括を行った。

2) 2024年度改定の結果の評価を行った。

3) 2026年度改定に向けての要望事項をまとめるべく活動した。

- ・ホームページを通じて会員からの要望事項を募った。
- ・昨年の申請の内容を吟味し次年度の申請に向けての準備を行った。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

(1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。

(2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査13件について, 承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった13件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し, 倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報(評議員, 正会員氏名, 所属, 施設会員名簿)の提供依頼があり

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの(規則第4条関係)

13件申請があり, 13件を承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では、腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2024年度は、高齢者の末期腎不全対策を主要なテーマとして学会企画を実施するとともに、バスキュラーアクセスの作成と管理状況についてアンケート調査を実施した結果を論文投稿に向けて作業中である。

1) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した結果を論文にまとめて投稿した。

2) 末期腎不全患者のQOL向上

本委員会では過去にも末期腎不全患者とQOLの関連について検討した。今回は保存期から透析期の腎不全管理や合併症管理がQOLにどのような影響を与えるのか、移植医療の視点でみた患者QOLや薬物療法や運動療法と腎不全患者のQOLについて、第69回日本透析医学会学術集会・総会の学会・委員会企画で5人の演者に解説していただいた。

司会：伊藤孝史（帝京大学）、小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

演者

- 1) 透析合併症管理とQOL向上のジレンマ 小向大輔（川崎幸病院腎臓内科）
- 2) 保存期から透析導入期の管理がQOLならびに予後へ与える影響 稲熊大城（藤田医科大学ばんだね病院）
- 3) 腎移植チームから見た腎代替療法とQOL 吉武 理（昭和大学病院腎移植センター）
- 4) 末期腎不全患者のQOL向上を目指す腎臓リハビリテーションの展開 松沢良太（兵庫医科大学）
- 5) 末期腎不全患者の薬物療法とQOLの関連 古久保拓（仁真会白鷺病院）

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之委員長）

- (1) 第69回日本透析医学会学術集会・総会（2024年6月7日～9日、パシフィコ横浜）において、災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「地域における災害時透析医療確保の取り組み」

司会：鶴屋和彦、山川智之

- 1) 小林真也（宮の沢腎泌尿器科クリニック泌尿器科）北海道における災害時透析医療の取り組み
- 2) 山本 卓（新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部）新潟県における災害時透析医療確保の取り組み
- 3) 谷村正信（高知県厚生連JA高知病院泌尿器科）高知県における災害時透析医療確保の取り組み
- 4) 田尻哲也（仁誠会クリニックながみね）熊本県における災害時透析医療確保の取り組み
- 5) 比嘉 啓（首里城下町クリニック第二内科）沖縄県における災害時透析医療確保の取り組み
- (2) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日、大阪国際会議場）において、「透析療法災害対策における広域・行政との連携」をテーマとした災害に関する委員会企画を企画した。
- (3) 第69回日本透析医学会学術集会・総会中（2024年6月8日）に韓国腎臓学会（KSN）災害対策委員会と会議（令和6年度日韓透析災害対策合同会議）を行い、災害対策に関する意見交換を行った。

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司委員長）

- (1) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しているが、医療事故調査・支援センターからの依頼があった場合、調査委員を派遣して事故事例のセンター調査に協力している。今年度は部会員、部会長の依頼はなかった。
- (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行った。
- (3) 第69回日本透析医学会学術集会・総会（6月7日～9日、パシフィコ横浜）において、医療安全に関する危機管理委員会企画を行った。
テーマ：「透析医療における医療安全のための提言作成に向けて」
司会：鶴屋和彦，満生浩司
 - 1) 安藤亮一（医療法人社団石川記念会）医療安全のための提言作成の経緯と概要
 - 2) 小松康宏（板橋中央総合病院総合診療内科）透析医療安全を達成するための方策
 - 3) 山下芳久（埼玉医科大学保健医療学部臨床工学科）透析操作関連の事故防止
 - 4) 木全直樹（中野南口クリニック透析室）透析医療における抜針事故防止に関する提言案
 - 5) 小山貴也（CHCPヘルスケアシステム桑園中央病院血液透析センター）転倒転落事故防止
 - 6) 宮崎真理子（東北大学病院血液浄化療法部）事故後の対応～患者への対応，家族等への連絡と説明，施設内での対応，外部への報告～
- (4) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日，大阪国際会議場）において、「透析医療における医療安全のための提言」をテーマとした医療安全に関する委員会企画を企画した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての寄稿，編集を進める。本年度は終了できなかったが，引き続き継続していく。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会とそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。本年度は終了できなかったが，引き続き継続していく。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT・2023年度透析専門医勤務状況調査報告」について

第69回日本透析医学会学術集会・総会において，学会・委員会企画10として，「TSUBASA PROJECT・2023年度透析専門医勤務状況調査報告」を開催した。

・第8回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究結果を発表し，日本透析医学会ホームページに掲載した。発表後，英文論文化しRRTへ投稿する。

・第7回TSUBASA PROJECT受賞者 小林重理沙先生（東京慈恵会医科大学）が，本プロジェクト承認後2年以内に英文論文化したことから，募集要項に定める論文化支援として，20万円の研究助成を認めた。

・「2023年度透析専門医勤務状況：透析療法領域における男女共同参画実態調査」の解析結果発表を行った。

Ⅱ. 第9回「TSUBASA PROJECT」について

第9回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励、援助し、それによって透析医療の向上、女性の活躍を推進させることを目的とし、優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第9回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT賞として応募された抄録から、優れた演題6件を選出する。抄録は日本語、800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い、理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行し、改めて500文字の抄録を作成する。

- ① 応募研究：透析医療に関する基礎研究、臨床研究、未発表論文であること
抄録は日本語、800文字まで
- ② 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師
- ③ 応募演題：6件
- ④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として、1件につき10万円を授与する。
- ⑤ 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から、さらに優秀な3演題を選出し、特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。
- ⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合には、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。
- ⑦ TSUBASA PROJECT賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第69回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をした。

15. 感染対策委員会

1) 感染対策委員会

1. 透析患者における結核の現状に関するアンケート調査

2024年5月、日本透析医学会の施設会員を対象に、透析患者における結核の現状に関するアンケート調査を実施した。4,167施設にアンケートを送付し、郵送で1,550件、Webで976件、合計2,526件(回収率60.6%)の回答を得た。

本調査により、透析患者における結核発症および潜在性結核感染症(LTBI: latent tuberculosis infection)の実態を明らかにすることができた。透析患者は結核発症の高リスク群であり、LTBIのスクリーニングの実施やLTBI患者に対する適切な治療の推奨、さらに透析医療機関における結核発症時の迅速な医療提供体制の整備が極めて重要であると考えられた。

なお、本アンケートの結果は、調査にご協力いただいた会員施設への報告として、2025年1月7日に日本透析医学会のホームページに掲載し、メーリングリストを通じて配信した。現在、本調査結果は査読付き英文誌に投稿しており、査読中である(2025年4月11日時点)。

2. 感染対策委員会の開催

2024年11月20日(水)18:30~19:30に、Web形式にて感染対策委員会を開催した。

会議ではまず、「透析患者における結核の現状に関するアンケート調査」の結果について委員への報告を行い、その内容および公開方法について議論を行った。

また、第70回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画について、2件の提案がなされ、いずれも承認された。

さらに、透析患者におけるCOVID-19の重症化リスクに関する検討もを行い、60歳未満であっても重症化や死亡のリスクが高いことが確認された。このことを踏まえ、新型コロナワクチンの60歳未満の透析患者への接種に対する公的補助について、厚生労働省への要望を提出する方向で検討を進めることとした。

3. 2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会において、以下の感染対策委員会企画を行った。

改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント
司会：菊地 勘（下落合クリニック）、竜崎崇和（東京都済生会中央病院）

演題（演者）：

- ① 標準的透析操作と感染対策（谷口弘美 東葛クリニック病院）
- ② 環境消毒（エコプロープの管理を含む）（増田直仁 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）
- ③ 透析室整備と環境対策（山本 淳 みはま病院）
- ④ B型肝炎ウイルス（HBV）・C型肝炎ウイルス（HCV）の現状と対策（菊地 勘 下落合クリニック）
- ⑤ HIV（安藤亮一 石川記念会）
- ⑥ 梅毒（西野友哉 長崎大学病院腎臓内科）
- ⑦ 透析患者におけるインフルエンザウイルス感染症への対策（鶴屋和彦 奈良県立医科大学腎臓内科学）
- ⑧ 結核（吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学）
- ⑨ ノロウイルス（増田直仁 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）
- ⑩ 带状疱疹（吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学）
- ⑪ 本邦透析患者におけるCOVID-19ワクチン接種の有効性～JSOT 年末統計調査を用いた解析～（菅原有佳 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科）

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	友 雅 司	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	阿 部 雅 紀	同	非常勤	なし	
同	猪 阪 善 隆	同	非常勤	なし	
同	酒 井 謙	同	非常勤	なし	
理 事	繪 本 正 憲	同	非常勤	なし	
同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	
同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊 地 勘	同	非常勤	なし	
同	倉 賀 野 隆 裕	同	非常勤	なし	
同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本CKD-MBD学会 理事長
同	後 藤 順 一	同	非常勤	なし	
同	鶴 屋 和 彦	同	非常勤	なし	
同	長 沼 俊 秀	同	非常勤	なし	
同	中 野 敏 昭	同	非常勤	なし	
同	西 尾 妙 織	同	非常勤	なし	
同	花 房 規 男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化AI学会 代表理事
同	林 香	同	非常勤	なし	
同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	一般社団法人 中国腎不全研究会 代表理事
同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	奈良県医師会透析部会 理事長
同	脇 野 修	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監 事	内 田 潤 次	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 代表理事
同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
同	齋 藤 満	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	浅沼克彦	同	非常勤	なし	
5	同	東治人	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
8	同	荒木信一	同	非常勤	なし	
9	同	荒木崇志	同	非常勤	なし	
10	同	荒木英雄	同	非常勤	なし	
11	同	安藤忠助	同	非常勤	なし	
12	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
13	同	家原典之	同	非常勤	なし	
14	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
15	同	池田直史	同	非常勤	なし	
16	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
17	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
18	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
19	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
20	同	石津隆	同	非常勤	なし	
21	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
22	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
23	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
24	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
25	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
26	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
27	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
28	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
29	同	岩田恭宜	同	非常勤	なし	
30	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
31	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
32	同	内山清貴	同	非常勤	なし	
33	同	海上耕平	同	非常勤	なし	
34	同	榎田英樹	同	非常勤	なし	
35	同	海老原至	同	非常勤	なし	
36	同	繪本正憲	同	非常勤	なし	
37	同	大島直紀	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大城義之	同	非常勤	なし	
39	同	大田聡	同	非常勤	なし	
40	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
41	同	大橋靖	同	非常勤	なし	
42	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
43	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
44	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
45	同	小川智也	同	非常勤	なし	
46	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
49	同	川合徹	同	非常勤	なし	
50	同	川口祐輝	同	非常勤	なし	
51	同	川瀬友則	同	非常勤	なし	
52	同	河原崎宏雄	同	非常勤	なし	
53	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
54	同	神田武志	同	非常勤	なし	
55	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊川忠彦	同	非常勤	なし	
57	同	菊地勘	同	非常勤	なし	
58	同	菊池正雄	同	非常勤	なし	
59	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
60	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
61	同	熊田憲彦	同	非常勤	なし	
62	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
63	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
66	同	河野圭志	同	非常勤	なし	
67	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
68	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
69	同	小林洋輝	同	非常勤	なし	
70	同	小林広学	同	非常勤	なし	
71	同	小林衛	同	非常勤	なし	
72	同	小向大輔	同	非常勤	なし	
73	同	米田雅美	同	非常勤	なし	
74	同	小山一郎	同	非常勤	なし	
75	同	今裕史	同	非常勤	なし	
76	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋藤満	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒井 直	同	非常勤	なし	
80	同	坂口 美佳	同	非常勤	なし	
81	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
82	同	佐々木 健介	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 純彦	同	非常勤	なし	
84	同	佐藤 暢	同	非常勤	なし	
85	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
86	同	志熊 聡美	同	非常勤	なし	
87	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
88	同	清水 泰輔	同	非常勤	なし	
89	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
90	同	白石 晃司	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
93	同	杉田 省三	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 仁	同	非常勤	なし	
98	同	瀬田 公一	同	非常勤	なし	
99	同	蘇原 映誠	同	非常勤	なし	
100	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
101	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
102	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
103	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
106	同	田代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
108	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
109	同	田邊 克幸	同	非常勤	なし	
110	同	田邊 起	同	非常勤	なし	
111	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
112	同	谷山 佳弘	同	非常勤	なし	
113	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
114	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
115	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
116	同	辻本 吉広	同	非常勤	なし	
117	同	津畑 豊	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	戸川証	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	内藤省太郎	同	非常勤	なし	
126	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
127	同	中倉兵庫	同	非常勤	なし	
128	同	中島歩	同	非常勤	なし	
129	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
130	同	長田太助	同	非常勤	なし	
131	同	仲谷慎也	同	非常勤	なし	
132	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
133	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
134	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
135	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
136	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
137	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
138	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
139	同	名波正義	同	非常勤	なし	
140	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
141	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
142	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
143	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
144	同	二瓶大	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
147	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
148	同	服部憲幸	同	非常勤	なし	
149	同	花房規男	同	非常勤	なし	
150	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
151	同	濱野高行	同	非常勤	なし	
152	同	早川和良	同	非常勤	なし	
153	同	林香	同	非常勤	なし	
154	同	林晃正	同	非常勤	なし	
155	同	林秀樹	同	非常勤	なし	
156	同	早田学	同	非常勤	なし	
157	同	原澤信介	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
159	同	番匠谷将孝	同	非常勤	なし	
160	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
161	同	平間章郎	同	非常勤	なし	
162	同	平山浩一	同	非常勤	なし	
163	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
164	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
165	同	深水圭	同	非常勤	なし	
166	同	福田顕弘	同	非常勤	なし	
167	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
168	同	古野剛史	同	非常勤	なし	
169	同	星野純一	同	非常勤	なし	
170	同	細島康宏	同	非常勤	なし	
171	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
172	同	前田兼徳	同	非常勤	なし	
173	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
174	同	升谷耕介	同	非常勤	なし	
175	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
176	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
177	同	松下和通	同	非常勤	なし	
178	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
179	同	丸山彰一	同	非常勤	なし	
180	同	丸山高史	同	非常勤	なし	
181	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
182	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
183	同	三浦健一郎	同	非常勤	なし	
184	同	水崎浩輔	同	非常勤	なし	
185	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
186	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
187	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
188	同	水口齐	同	非常勤	なし	
189	同	三野和宏	同	非常勤	なし	
190	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
191	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
192	同	望月保志	同	非常勤	なし	
193	同	森克仁	同	非常勤	なし	
194	同	森建文	同	非常勤	なし	
195	同	森下義幸	同	非常勤	なし	
196	同	森本耕吉	同	非常勤	なし	
197	同	森山能仁	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	安田日出夫	同	非常勤	なし	
199	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
200	同	山川智之	同	非常勤	なし	
201	同	山口慎太郎	同	非常勤	なし	
202	同	山田保俊	同	非常勤	なし	
203	同	山中正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本泉	同	非常勤	なし	
205	同	山本聡	同	非常勤	なし	
206	同	山本卓	同	非常勤	なし	
207	同	横地章生	同	非常勤	なし	
208	同	吉田理	同	非常勤	なし	
209	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉嶺陽仁	同	非常勤	なし	
211	同	吉本明弘	同	非常勤	なし	
212	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
213	同	頼建光	同	非常勤	なし	
214	同	若杉三奈子	同	非常勤	なし	
215	同	脇野修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
217	同	渡辺誠	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	22名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	217名	なし	
合計	242名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2025年3月31日現在	2024年3月31日現在		
正 会 員	14,178	14,107	71	
施設会員	4,183	4,181	2	
賛助会員	55	58	-3	
名誉会員	53	53	0	
計	18,469	18,399	70	

③ 職員に関する事項

令和6年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	小 島 吉 晴	令和5年4月1日	総括管理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和6年5月17日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 入会・退会に関する件 日本透析医学会定款施行細則第10条第2項に基づく推薦枠理事候補者の推薦に関する件 役員選任に伴う選挙立会人候補者の指名に関する件 令和6年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 令和5年度事業報告（案）に関する件 令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 令和5年度監事による監査報告に関する件 第69回通常総会開催及び臨時総会開催に関する件 第69回学術集会・総会開催時の各賞表彰次第（案）に関する件 第28回日本心不全学会学術集会とのジョイントセッションの開催について 2023年度VA血管内治療認定医認定に関する異議申立てについて 学術委員会報告 一般社団法人日本移植学会「生体腎移植施設基準に関するアドホック委員会」委員の推薦について 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定の委員会設置の提案 第69回（令和6年）学術集会・総会に関する件 第70回（令和7年）学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和6年6月6日 第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 入会・退会に関する件 第69回通常総会及び臨時総会の進行に関する件 学術委員会「末期腎不全の緩和医療・ケアに関する提言」作成委員会委員に関する件 ベトナムへの講師派遣の依頼に関する件 委員会報告の位置付けに関する件 EDCに関わる業者選定に関する件 CKD-MBDガイドライン原案に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 6 年 6 月 6 日 第 2 回理事会	8. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 9. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 6 月 6 日 第 3 回理事会	1. 理事長（代表理事）選定の件 2. 常任理事の選定の件 3. 常置委員会委員長・小委員会委員長及び委員の委嘱に関する件 4. 対外委員に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 8 月 2 日 第 4 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 常置委員会委員長，小委員会委員長等及び委員に関する件 3. 対外委員に関する件 4. 2024 年度セルフトレーニング問題採点結果に関する件 5. 「肺炎球菌ワクチンを含むワクチンに関して予防啓発をリードする若手医師の育成を目指す教育活動」に関する公募型医学教育プロジェクト助成応募へのご承諾のお願いに関する件（事後審議） 6. 保険委員会関連 7. 「VA 日常管理指導士」（仮称）設立のための委員選出に関する件 8. 委員会報告の作成に関する件 9. WCN'26（世界腎臓学会議）の日本（横浜）開催招致決定に関する件（事後審議） 10. 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会関連 11. Renal replacement therapy 誌（RRT 誌）Editor in chief に関する件 12. 第 69 回（令和 6 年）学術集会・総会に関する件 13. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 14. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件 15. 第 72 回（令和 9 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 12 月 6 日 第 5 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 幹事の推薦に関する件 3. 第 70 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 4. 第 71 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 5. 第 72 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 6. 第 73 回（2028 年）次次次期会長選出に関する件 7. 2025 年度事業計画，概算要求及び 2024 年度事業報告の作成に関する件 8. 2024 年度当初予算の誤謬修正に関する件及び補正予算（案）に関する件 9. 特定資産から流動資産への一部繰入（案）に関する件 10. 規則等の制定に関する件 11. 規則等の一部改正に関する件 12. 「台湾，韓国，本学会 3 学会シンポジウム推進小委員会」に関する件 13. 編集委員会 和文誌編集委員会関係 14. 学術委員会 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ関係 15. 学術委員会 末期腎不全患者の緩和医療・ケアに関する提言作成委員会に関する件 16. 専門医制度委員会関係 17. 第 71 回（2026 年）学術集会・総会に関する件 18. 第 33 回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会合同セッション開催について 19. 学術集会・総会時における通常総会開催に伴う通告について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 3 月 14 日 第 6 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 第 73 回（2028 年）次次次期会長選出に関する件 3. 名誉会員の推薦に関する件 4. 2025 年度事業計画（案）に関する件 5. 2025 年度新規事業に伴う概算要求（案）に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・統計調査委員会 令和 6 年 5 月 8 日	3. 2024 年（次年）調査内容の検討 4. EDC 推進検討ワーキンググループ WEB 会議の報告 5. 解析小委員会からの報告 6. 2022 年末慢性透析患者数“減少”の背景を分析する. 透析会誌 57（2）：51-67, 2024 7. 第 69 回日本透析医学会学術集会 統計調査委員会企画 8. 公募研究の再開について 9. SharE-RR 報告 10. USRDS へのデータ提供	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 6 年 8 月 21 日	1. 2022 年調査のまとめと EDC 推進検討ワーキンググループの入力用 Excel ファイルの DL, UL システムの業者選定結果について 2. 2023 年現況報告案, CD-ROM 帳票案の提示 3. 2024 年（次年）調査内容の検討 4. 2024 年調査研究計画書, 倫理関連書類（理事会, 倫理審査）の作成, UMIN 登録について 5. 公募研究の内規について 6. 「統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」一部内容見直しについて 7. 解析小委員会報告 8. 他団体へのデータ提供（USRDS）について 9. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 6 年 10 月 7 日	1. 2024 年調査内容について 2. 2023 年現況報告, CD-ROM 帳票 3. 2024 年調査データの二次利用申請について 4. 公募研究 募集の検討 5. 解析小委員会からの報告 6. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 1 月 22 日	1. 2024 年調査進捗状況報告 2. 2025 年度事業計画と 2024 年事業報告の確認 3. 2023 年現況報告, CD-ROM 帳票 4. 公募研究の募集について 5. 日本透析医学会統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規 6. 統計調査入力用 Excel ファイルの二次利用申請の審議 7. データの提供依頼（地方自治体, その他） 8. EDC システムの仕様について 9. 解析小委員会からの報告 10. 患者数予測について 11. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 3 月 26 日	1. 2024 年調査の経過報告 2. 2024 年現況報告の構成, CD-ROM 帳票案について 3. 2025 年（次年）調査内容の検討 4. EDC 推進検討ワーキンググループ WEB 会議の報告とシステムの仕様に関する検討 5. 公募研究の応募状況, 審査についての報告 6. 内規の改訂についての報告 7. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容についての報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 令和 6 年 11 月 24 日	1. 2024 年度認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査結果報告について 2. 2024 年度専門医認定試験結果報告について 3. 日本専門医機構サブスペシャルティ領域について 4. 地方学術集会認定申請について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 3 月 20 日	1. 認定期限 2025 年 3 月 31 日までの専門医認定更新審査結果について 2. 2024 年度 第 35 回 指導医認定審査結果について	全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 7 年 3 月 20 日	3. 認定期限 2025 年 3 月 31 日までの指導医認定更新審査結果について 4. 地方学術集会, 生涯教育プログラム, 全国規模学術集会について 5. 専門医制度規則・施行細則改訂について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・国際学術交流委員会 令和 6 年 8 月 7 日	1. 第70回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画について 2. 委員の退任と新委員の推薦について	全会一致で承認 全会一致で承認
・評議員選出委員会 令和 6 年 12 月 27 日	1. 評議員選出規則の修正について 2. 第 8 回評議員選出日程 (案) について 3. 評議員選挙の電子投票について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 令和 6 年 9 月 28 日	1. 令和 6 年度診療報酬改定に関して 2. 令和 8 年度改定に向けて流れ 3. 令和 8 年度改定に向けて取り組み	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 令和 6 年 9 月 9 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和 6 年 10 月 22 日	1. 令和 6 年度の事業報告について 2. 第 70 回学術集会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第 70 回学術集会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	
・感染対策委員会 令和 6 年 11 月 20 日	1. 「透析患者における結核の現状に関するアンケート」調査の結果報告 2. 「透析患者における結核の現状に関するアンケート」調査結果の公開について 3. 日本透析医学会での委員会企画について	報告・承認 報告・承認 報告・承認

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事長	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンズ・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎血液浄化 AI 学会	監 事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンズ・メンブレン研究会	理 事	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	特別顧問	一 部
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	幹 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	幹 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腹膜透析医学会	監 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
	理 事	繪 本 正 憲	一般社団法人 大阪透析研究会	理 事
一般社団法人 日本マグネシウム学会			理 事	関係なし
特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会			理 事	一 部
小 川 智 也		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本在宅血液透析学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
菅 野 義 彦		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	菊 地 勘	公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
	倉 賀 野 隆 裕	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
	小 岩 文 彦	一般社団法人 日本 CKD-MBD 学会	理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	関係なし
	後 藤 順 一	北海道透析医会	会 長	一 部
		札幌市透析医会	副会長	一 部
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	長 沼 俊 秀	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	監 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	ほぼ同一
		大阪透析医会	常任幹事	ほぼ同一
	西 尾 妙 織	一般社団法人 多発性嚢胞腎協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフェリシス学会	理事(10月まで)	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	林 香	妊娠高血圧学会	理 事	関係なし
	平 和 伸 仁	神奈川県透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	監 事	関係なし
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	代表理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	米 田 龍 生	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一
		奈良県医師会透析部会	理事長	ほぼ同一
	脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎不全合併症学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
監 事	内 田 潤 次	一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪透析研究会	代表理事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。